

会社も元氣・心も元氣・体も元氣

今月は、前回に引き続き、京セラ「経営の原点12ヶ条」の第7条から第12条をご紹介します。

京セラ経営の原点12ヶ条の第1条から第6条までは、なぜ経営するのかを、経営者自身がはっきりさせ、その目的・意義が決まれば、次に具体的な数値目標を定め、将来のことがカラー写真で浮かび上がるまでイメージする。それが、イメージができれば、腹をくり誰にも負けないぐらいの努力をなさなさい。…と意味深い内容で始まり、次に利益を計上するための、根本的な考え方を説いています。

第7条からは、何事も必ずやり遂げるという強い意志が必要で、経営の意思決定を行う場合、そこに勇氣もいることが述べられています。経営上の利益を優先するため、法を犯したり、一般常識では考えられない間違った経営判断をすることがあります。しかし、正しい経営判断をするためには、要所要所で大きな勇氣が必要となります。また、常に革新的に業務を行うことも、企業発展には欠かせないものです。以上のような行動を通じて、いわゆる「三方よし」の精神で、皆がハッピーとなることをやり、夢や希望を持ち、素直な心で、決して暗く悲壮感に満ちた生き方をせずに、明るく前向きに



三宅税理士事務所

所長税理士 三宅 孝治

〒710-0803 倉敷市中島2370-14
TEL : 086-466-1255

<http://www.cms-miyake.info>

経営することが重要であると、締め括っています。

経営には、論理的に考える思考・決断力や行動力・心(思いやり、素直、前向き)が重要だといえます。このように、この度、ご紹介いたしました12ヶ条は、とても奥深いものです。第1回と第2回は、少し難しい内容でしたが、共に学び、共に良い会社にしてゆきましょう。次回は、京セラ会計学をご紹介します。

なお、この度の掲載は、京セラ関係機関のご承諾を頂いています。

京セラ経営の原点12ヶ条

7. 経営は強い意志で決まる
経営には岩をも穿つ強い意志が必要。
8. 燃える闘魂
経営にはいかなる格闘技にもまさる激しい闘争心が必要。
9. 勇氣を持って事に当たる
卑怯な振る舞いがあるのはならない。
10. 常に創造的な仕事を行う
今日より明日、明日よりあさってと常に改良改善を絶え間なく続ける。
創意工夫を重ねる。
11. 思いやりの心で誠実に
商いには相手がある。相手も含めてハッピーであること。皆が喜ぶこと。
12. 常に明るく前向きに、夢と希望を抱いて素直な心で

京セラ株名誉会長・盛和塾塾長 稲盛和夫